



古代米稲刈り (9月17日 真脇遺跡公園)

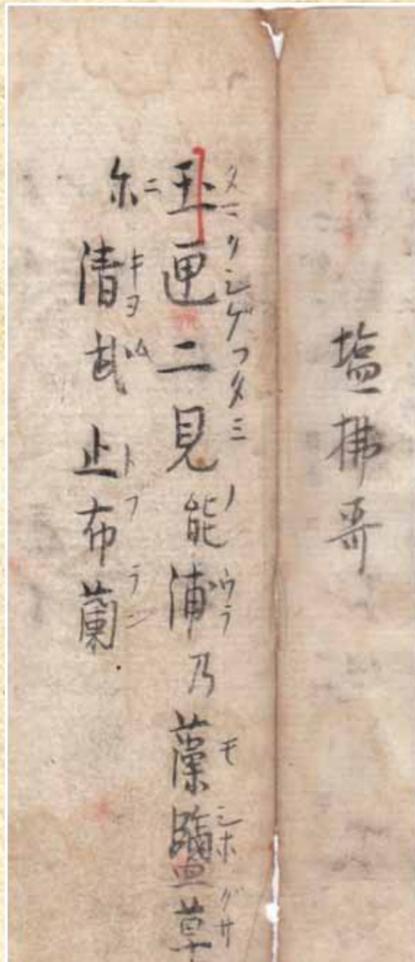
小木小学校の5、6年生31人が古代米「緑米」を刈り取りました。5月22日に植えた緑米は大きく成長。うれしい収穫の一日になりました。



千尋の浜草

旅日記⑩ 本居宣長の元で勉学の日々

加藤三千雄さんがたどる先祖・吉彦の鈴屋入門



①「神祭詞記」に記された和歌の部分
②本居宣長像(本居宣長記念館開館40周年記念「本居宣長の不思議」同館2011より転載)

6月3日 日暮れから宣長の万葉集の講釈。翌日は読書。

5日 愛宕町少彦名神社にて午後より、宣長の「玉くしげ」の講釈。日野町の本屋で柏屋兵助という人に頼むことができてこの講釈の席へ。夕方には終わり帰りました。

6日 夕方、本居宣長のもとで源氏真木柱の講釈。

7日 宣長は7日から15日は所どころでそれぞれ祇園祭が続くので、講釈を休みにすると宣言しました。午後から久貞に勧められて祇園祭の鋸り山、拍子物を見に出て帰りに紙筆を買い、宣長の著書を写し始めました。

8日 話の素材にしよう、このあたりの祇園様をお祀りする宮をめぐる、獅子舞、踊り子、あやつりなどを見て夜遅く帰りました。9日から11日まで写本に没頭。

13日 例年宮川に花火があり、袖を擦りあうほど賑やかです。川向の里里(神宮側)は、松明をともし、太鼓と鉦を打ち鳴らし「虫送り」行事をしている。吉彦は宮川の河原で腹這って見学して、夜遅く帰りました。

14日は休み、翌15日は岩田周蔵氏と二見ヶ浦を詣でました。

いせの海 二見がうらのふたたびと

逢見ん人は なつかしおもほゆ

玉くしげ 二見が浦の藻塩草

心や先に 清むといふらん

二見帰りのしるしとして、浜荻の葦を2、3本折り取り、もしほ草も合わせて久貞の土産に持ち帰りました。「玉くしげ 二見が浦の藻塩草・・・」この歌は当家にわずかに残されていた『神祭詞記』に、塩拂哥として吉彦自身により収載されています。



寛政の旅人：加藤吉彦(かとう・えひこ)。寛政9(1797)年、36歳の時、伊勢の本居宣長の元を訪ね入門。酒垂神社12代宮司。
平成の旅人：加藤三千雄(かとう・みちお=写真)。現酒垂神社宮司。9代前の先祖、吉彦の道中を実際にたどり、伊勢松坂で吉彦と宣長の交流の跡を目の当たりにした。

